

2009 年度各研究部会及び国際委員会の報告

理念哲学研究部会

* 21 年度研究活動報告

毎月第 4 月曜日 17:00-19:00,月例研究会を実施。当部会は福留会長、佐藤幹事のもと、例会活動を行ってきた伝統のある部会で、平成 22 年 3 月例会は 143 回目。会の目標は第一に古今東西の哲学や人物の思想、経済思想を学ぶことであり、第二に、新世紀の指導精神となる普遍的な指導理念を構築することにある。18 年度から古典輪読会を開始

平成 21 年 4 月 佐々木有一「仏教シリーズ 1 - 人生観と仏教（増補版）」

5 月 青木 崇

博士論文『価値創造経営のコーポレート・ガバナンスに関する研究』の概要

6 月 福留民夫「鈴木正三について」紹介講話

7 月 山本毅『大学味講』p124~151・佐々木有一「人生観と仏教」

8 月 暑気払い-昼食会

9 月 村山元理「東北大学会計大学院での「ビジネス倫理」の授業紹介」・

青木 崇「企業不祥事のメカニズムと現代経営者の役割

—社会に信頼される企業作りに向けて—」

10 月 辻井清吾「初代伊藤忠兵衛にみる近江商人の仏教意識とその意義」

11 月 『大学味講』青木崇 (p.151-187) の要約と自己解釈を披露する

12月 佐々木有一 「仏教シリーズ No.3」

平成 22 年 1 月 キャンセル, 経営倫理シンポジウム直前にて

2月 加藤比呂人 「王陽明先生の生涯と伝習録」

3月 『勤勉の哲学』（山本七平著、祥伝社、平成 20 年）輪読会開始

第 1・2 章（村山要約）

* 研究成果

東洋の古典を通じて、西洋倫理学にない独自の経営倫理的視座の構築につとめることを大きな目標と掲げ、平成 20 年から『大学』の読書会を始め、現在、『勤勉の哲学』（山本七平）を通じて、鈴木正三、石田梅岩の勤労倫理、商業道德について学びはじめた。毎回 10 名程度が参加。

『新世紀<経営の心> 16 人の先達の心-』（英知出版、2001 年）という書籍が福留前会長の時代に刊行している。この書籍は 12 人の論考からなり、経済思想家と実業家の伝記・経営理念の研究からなっている。将来的にはこのような著書をまとめたいと考えているが、現在は、仏教研究・陽明学研究の発表が多い状況である。ちなみに佐々木有一は比較思想学会研究例会(2010 年 2 月)において「回向から摂取へ」と題して、研究発表を行った意義は大きい。10 月の研究発表大会では青木崇が部会推薦として発表を行った。12 月の研究例会で村山が「共同体としての企業－CSR(掃除、スピリチュアリティ、宗教)の視点から」のテーマで自己の最近の研究内容をまとめて発表した。

* 22 年度研究活動予定

4月26日 「仏教シリーズ No.4」 佐々木有一

5月24日 『勤勉の哲学』第3・4章 山本毅

6月28日 未定

7月26日 『勤勉の哲学』第5・6章

企業行動研究部会

* 21年度研究活動報告

月例部会は理事会関連報告・時勢に合ったテーマについての発表および意見交換・企業不祥事

例研究等に加え、

テーマ別分科会の進捗状況の報告を行っている。

平成21年度の月例部会での主たる発表は次のとおりである。

4月 「杉村廣蔵『経済哲学』再評価の視点」： 小坂勝昭部会員

5月 「CSRとコーポレ-とガバナンス概念に関する三つの混乱」： 峰内謙一部会員

6月 「CSRとコーポレ-とガバナンス概念に関する三つの混乱」パート2： 意見交換

7月 「6月開催の各社株主総会出席報告」： 上原利夫部会長ほか

8月 「GMが再生するために経営倫理上何が求められるか」： 峰内謙一部会員

9月 「GM破綻の要因と経営倫理の日米差」： 意見交換

10月 「研究発表大会発表予定者によるプレゼンテーション」： 当部会関係者5組

1 1月 「第 17 回研究発表大会を振り返って」 : 意見交換

1 2月 「21 世紀の社会システムと経営倫理」 : 佐藤陽一部会員ほか

1 月 「高橋会長の学会のあり方に関する提言について」 : 意見交換

「公益・公益資本主義に関連して」 : 峰内謙一部会員

2 月 「公益問題に関する分科会の発足について」 :意見交換

「欧州の CSR 事情と日本の CSR 事情」 : 古谷由紀子部会員

3 月 「公益問題について」 : 意見交換

日曜ランチ懇談会は 4 月 5 日、6 月 16 日、1 月 10 日の三回開催し、平均 1 4 名の参加者があった。

* 研究成果

月例会会での参加者の発表や意見交換は非常に活発であり、部会員の意識と意欲の高さがかんじられる。2 0 年度からスタートした特定テーマについての分科会活動「偽装」「環境倫理」「男女共同参画」の 3 分科会において特に活発であった。結果的に第 17 回研究発表大会では当部会より伊澤、勝田、峰内、中島、河口、宮川、五来の各氏が 6 テーマについて発表を行なった。また、研究交流例会においても 7 月度(瀬名) 9 月度(小坂) 3 月度 (小坂・西井) の 3 例会において当部会員が発表を行なった。

対外的には 4 月に環境倫理部会有志 6 名が共著で「環境問題アクションプラン 4 2 – 意識改革でグリーンな地球に！ –」を出版した。(地球問題を考える会著、三和書籍発行)

* 22年度研究活動予定

当部会の会合は本年3月例会で第164回を迎えた。メンバー数は3月末時点で64名。

本年度も、昨年度に引続き月例会、分科会、日曜ランチ懇談会の三本立てで進める。

分科会については研究したいテーマを持つ部会員が発起人となって3人以上のメンバーを集めれば発足できることとしているので、新しいテーマによる分科会を増やし研究を深めて論文や研究発表につなげて行きたい。当部会には豊富な実務経験を持つ部会員や海外勤務経験者が多いので、実務的な視点やグローバルな視点を研究に生かして行きたい。

日曜ランチ懇談会は、月例会に時間的に出席できない部会員も参加でき、全く自由な意見交換ができるので、年3回程度実施する予定である。

監査研究部会

* 21年度研究活動報告

1. 部会ミッション（使命）を策定。：監査役活動並びに監査役制度の更なる有効性向上のため
に、「経営倫理」の観点から学術的・実務的な研究を行い、有用な研究成果を得ることを使命とする。その成果を学会で発表するとともに国内外の諸機関・団体等に提言する。
2. 部会基本テーマ：企業不祥事に関わる監査役の役割
3. 個別テーマ（1）は最初から個人別にテーマを割り振った研究とし、個別テーマ（2）は監査役制度の問題点抽出と「倫理等」によるその解消策の研究とした。

個別（１）：

21年 4月：上原利夫

「企業不祥事の分類とその対応策－監査役の視点から」

11月：小林仁志

「企業不祥事・不正を予防する業務監査のあり方」

22年 1月：藤井保紀

「会計制度に絡む企業不祥事に対する監査役の対応」

2月：泊 久次

「粉飾決算を防ぐ監査役監査」

3月：山脇 徹

「企業不祥事防止に役立つ内部統制強化と監査役の対応」

個別（２）：21年 5月～：

C/G(コーポレート・ガバナンス)状況調査や監査役制度問題点の調査・発表を実施

中濱 久5・6月経産省のC/G、7月北大の論文紹介、8月問題点の解消対策

佐藤陽一5月関西経済同友会「経営者の心得9個条」の紹介、7月北大蟹江教授

今井 祐5月監査役協会「有識者懇談会」C/Gの課題・経団連主要論点の紹介

大関 誠7月吉井毅元監査役協会会長論文の紹介、8月問題点と対応策

泊 久次8月問題点の解消策

6月：貫井陵雄

「経営倫理に関する一考察」

9月：今井 祐

「監査役制度問題点のまとめ」

10月：多田直彦

「監査役制度問題点の解消に「倫理」はどう関われるか」

12月：貫井陵雄

「同制度問題点と倫理等によるその解消策」論点整理

22年2・3月：全員

12月「貫井提案テーマ」の分担案検討

*研究成果

1. 違法事件の多くは経営トップの偽装行為で、格差ある経済社会では偽装はなくなる。

偽装発生防止には業界の監査役が団結し、共同責任体制をしくべきである。

2. 誠実な経営を目指すために経営倫理の考え方や企業での経営倫理導入の必要性につき詳しく

説明があり、有益であった。

3. 監査役制度問題点につき、色々な角度からの調査・分析・報告があり、その理解を深めた。

4. 監査役制度問題点の倫理等による解消策につき、多くの部会員から意見があり、企業倫理制

度化策の提案や監査役（会）制度と資質並びに制度の運用が大切と主張。

5. 企業不祥事・不正を予防する業務監査のあり方に関し、内部統制の環境整備の必要性、評価体制のあり方及び評価ツールの整備充実等が重要。

6. 「監査役制度問題点と倫理等によるその解消策」の論点整理が行われ、今後の研究課題として、監査役倫理規定の制定・監査役監査のベストプラクティス作成・C/G 論整理と提案・国際会計基準と監査役業務等が提案され、来期も継続研究することになった。

7. 会計制度に絡む企業不祥事に対する監査役の対応につき詳細説明があり、粉飾決算への監査役の対応は倫理を根底に判断することが求められている。

8. 粉飾決算を防ぐ監査役監査につき詳細説明があり、三様監査の実効化・内部統制運用監査等諸制度のモニタリング・粉飾の芽の監視・勇気ある意見表明等が重要。

9. 大会発表や論文発表はなかったが、企業不祥事防止に向けた調査・研究が進んだ。

* 22年度研究活動予定

1. 平成22年度研究基本テーマは21年度と同様「企業不祥事に関わる監査役の役割」とする。

2. 個別テーマの担当は現在次の通りである。

4月：国際会計基準（IFRS）の概観（藤井）

5月：「公的規制と企業倫理」主旨と資料編1（今井）

6月：英国 FSA の精神と方法論の学習（山脇）

7月：「公的規制と企業倫理」本論（今井）

7月：企業不祥事防止のための監査役監査業務の抽出及びモデル化作業（泊）

9月：C/G 論整理と公認業務監査役制度（中濱）

10月：倫理規定・監査役遵守規範のまとめ（貫井）

11月：内部統制監査ベストプラクティス（大関・平野）

12月：監査役監査ベストプラクティス（貫井・小林）

1月：国際会計基準と経営倫理（上原）

2月：監査役制度有効性向上と倫理監査強化(今井)

3月：平成23年度部会基本テーマと個別テーマの審議・決定（全員）

3. 部会は原則、毎月第3金曜日の14～16時に、神田の学士会館会議室で開催している。

関心ある方々の参加を歓迎します。

実証調査研究部会

* 21年度研究活動報告

当部会メンバーであった瀬野 泉 氏のご逝去された一方、新たに横田理宇氏（麗澤大学大学院国際経済研究家・博士課程2年在学中）が加入した。

これまで当研究部会（略称：調査部会）活動の柱の一つとしてきた「企業倫理の制度化に関する定期実態調査」を昨年度で終了したため、現在、新たな「企業倫理に関する実証研究」の方向性について模索中。その一環として、以下のような部会研究会を開催した。

・2009年8月18日（火）麗澤大学にて

①研究報告 報告者：横田理宇、報告テーマ「組織公正と企業倫理」

②フリーディスカッション：「今後の部会活動の在り方について」

部会の主要メンバーがそれぞれ学務等で多忙につき、部会の研究活動は上記 1 回の実施だけに終わってしまったことを、部会長として大いに反省している。

* 研究成果

昨年（平成 20 年）実施の「第 5 回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」

の成果をふまえ、以下の論文を発表した。

- ・日本経営倫理学会実証調査研究部会 中野千秋・山田敏之「我が国における企業倫理制度化の変遷：1996 年～2008 年」（社）企業研究会『Business Research』No.1021, (2009 年 6 月 1 日発行) pp.80-93.

また、経営倫理実践研究センター『経営倫理』に、以下の研究部会紹介記事を掲載した。

- ・中野千秋「JABES の研究部会紹介・実証調査研究部会」『経営倫理』No.56（2009 年 10 月 25 日発行）p.42.

* 22 年度研究活動予定

このところ、主要メンバー（特に部会長の中野）が多忙のため、部会研究活動が停滞気味になっている。この現状を大いに反省し、平成 22 年度は、新たな研究テーマを設定し、部会研究活動の再活性化を図りたいと考えている。

CSR 研究部会

* 21年度研究活動報告

毎月第2火曜日に電力中央研究所会議室（大手町）にて部会を開催するとともに、以下の活動を中心に行った。7/14（火）には、独立行政法人製品評価技術基盤機構にて開催し、NITE スクエアおよび関連施設の見学を行った。

(1) 部会メンバーによる事例・研究報告

- ①「ワーク・ライフ・バランス施策の有効性の検証とその推進に関する提言」（小池裕子）
- ②「“自社強みを活かした”戦略的 CSR による社会課題への対応」（水上武彦）
- ③「コマツのコンプライアンス活動について」（新城 修）
- ④「カナダ・ケベック ISO/SR 総会」（矢野友三郎）
- ⑤「世界同時不況に耐えうる経営の根幹」（萩原道雄）
- ⑥「CSR 経営としての企業グループ・ガバナンス」（高野一彦）
- ⑦「三菱化学グループのコンプライアンス実践度診断」（山中 裕）
- ⑧「会社を甦らせる CSR、逆境経営 7つの法則」（水尾順一）
- ⑨「ネクストの経営理念実現に向けた取組み」（高橋貢・田中めぐみ）

(2) 部会メンバー以外による報告

- ④「オリセットネットを通じたアフリカ支援と住友化学の挑戦」（住友化学（株） 水野達男・
広岡敦子）

②「リコーグループのCSR活動について」((株)リコーCSR室 吾妻まり子)

(3) 明治学院大学のCSR講座

明治学院大学の一般社会人を対象に実施したCSR講座(2009年度、4/24~7/17)において、水尾順一、蟻生俊夫、清水正道、長濱昭彦、宮川聡、星野邦夫、斉藤全彦、明石雅史、萩原道雄、田中宏司の10名が講師となり、「CSRとその重要性」「CSRと環境問題」などCSR関連のテーマでの講義を実施した。

(4) ISOによるSR規格化動向に関するフォローアップ

(5) 単行本刊行

『ビジネスマンのためのCSRハンドブック-先進企業の事例から用語解説まで』(PHP)を刊行。

(6) 雑誌等への執筆

『標準化と品質管理』(日本規格協会)「CSR最前線」および日経CSRプロジェクト『CSR研究の最前線』を連載執筆。

(7) 日本経営倫理学会全国大会等における研究発表

(8) 学会活動への協力

(9) その他(メンバー間の情報交換、講演・雑誌掲載によるCSRイニシアチブの普及など)

*研究成果

④単行本『ビジネスマンのためのCSRハンドブック-先進企業の事例から用語解説まで』(PHP)

の刊行。

②『標準化と品質管理』および日経 CSR プロジェクトへの投稿。

③日本経営倫理学会誌第 16 号への投稿。

* 22 年度研究活動予定

平成 21 年度の活動成果を踏まえ、平成 22 年度も毎月第 2 火曜日に電力中央研究所会議室（大手町）にて部会を開催し、以下の内容を中心に活動する予定。

(1) 各メンバーによる事例・研究報告

(2) ISO の SR 規格のフォローアップ

(3) 学会での研究発表

(4) その他（尾瀬合宿など）

経営倫理教育研究部会

* 21 年度研究活動報告

本会は大学で経営倫理の教鞭をとっている者あるいは将来大学で教職につくことをめざして大学院で研究をしているものを対象とした高等教育機関における倫理教育を研究するための部会である。

本年度は 2 回の研究会をもった。そのうちの 1 回は前東北公益文科大学の中谷先生 9 月 7 日に上智大学を会場にして行われ、勝西先生、ボウイ先生のカント倫理学を基礎にしたビジネス倫理学のあり方について活発な討論が行われた。

2回目の研究会は金沢工業大学の岡部先生に座長となっただき、実施されたもので金沢工業大学虎ノ門サテライトキャンパスを会場に11月28日に実施された。

この会では高田会員、谷会員の大学院生の最新研究のご発表をいただいた。

限られた時間の中ではあったが、それぞれに有益な時間を過ごすことができた。

* 22年度研究活動予定

本年度も大学教員と大学院生の発表を中心に2回から3回の研究会を開催していきたいと考えている。本会は原則として東京とそれ以外の都市にある大学を会場として研究会を開催し、それぞれの地域の大学や院生にインパクトを与えていくことを計画してきたが、22年度もその方針で一階は地方都市での開催を実施したいと考えている。

また、大学院生を中心として将来大学での研究、教育を目指す人材を育成する研究部会としての使命を明確にするとともに、研究発表大会などのおりに研究者、教育者として知っておくべきことがらを学ぶワークショップを開催する事も考えている。

経営倫理教育研究部会

* 21年度研究活動報告

本会は大学で経営倫理の教鞭をとっている者あるいは将来大学で教職につくことをめざして大学院で研究をしているものを対象とした高等教育機関における倫理教育を研究するための部会である。

本年度は2回の研究会をもった。そのうちの1回は前東北公益文科大学の中谷先生9月7日に上智大学を会場にして行われ、勝西先生、ボウイ先生のカント倫理学を基礎にしたビジネス倫理学のあり方について活発な討論が行われた。

2回目の研究会は金沢工業大学の岡部先生に座長となっていていただき、実施されたもので金沢工業大学虎ノ門サテライトキャンパスを会場に11月28日に実施された。

この会では高田会員、谷会員の大学院生の最新研究のご発表をいただいた。

限られた時間の中ではあったが、それぞれに有益な時間を過ごすことができた。

* 22年度研究活動予定

本年度も大学教員と大学院生の発表を中心に2回から3回の研究会を開催していきたいと考えている。本会は原則として東京とそれ以外の都市にある大学を会場として研究会を開催し、それぞれの地域の大学や院生にインパクトを与えていくことを計画してきたが、22年度もその方針で一階は地方都市での開催を実施したいと考えている。

また、大学院生を中心として将来大学での研究、教育を目指す人材を育成する研究部会としての使命を明確にするとともに、研究発表大会などのおりに研究者、教育者として知っておくべきことがらを学ぶワークショップを開催する事も考えている。

トップマネジメントの経営倫理研究部会

* 21年度研究活動報告

4月：トップ・マネジメントの経営倫理のチェック・ポイント作業（1）

5月：トップ・マネジメントの経営倫理のチェック・ポイント作業（2）

6月：トップ・マネジメントの経営倫理の原稿提出と全体調整（1）

8月：トップ・マネジメントの経営倫理の原稿提出と全体調整（2）

10月：トップ・マネジメントの経営倫理の出版とフォロー

11月：トップ・マネジメントの経営倫理の出版と今後の方針についての話し合い

（このほかに出版に向けての編集者、個々の執筆者との内容、ボリュームの調整等を行った。）

* 研究成果

『トップ・マネジメントの経営倫理』白桃書房刊、2009年10月：

4年間の研究成果として ①BERC対象企業のアンケート調査と分析②経済界の動向と監査体制

③事例研究—保険会社、エンロン、NOVA、雪印乳業、台湾企業④BERC会員企業の経営者によ

る提言⑤経営倫理遵守のためのチェックリストの内容校正で出版した。本書は特に実務界で好評

を得ており近々再版の予定である。

* 22年度研究活動予定

書籍の出版によって研究成果は達成したため今後は再編成して行うことを考えている。従って本

研究部会はこれで終了する。

関西地区研究部会

* 21年度研究活動報告

第1回（平成21年4月24日：大阪府商工会館）

国土交通省近畿地方整備局 総務部長 小滝晃氏（ゲスト）

テーマ

「官のコンプライアンスの取組み」

第2回（平成21年7月31日：大阪府商工会館）

㈱ルシアン 法務リスクCSR部 飛田治則氏（会員）

テーマ

「企業社会における信認関係としての個人情報保護」

第3回（平成21年10月30日：大阪府商工会館）

立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科教授 池田耕一氏（会員）

テーマ

「企業不祥事発生メカニズムと求められる統合的組織マネジメント」

第4回（平成22年1月29日：大阪府商工会館）

株式会社 芙蓉総合研究所 加藤健二氏（会員）

テーマ

「経営倫理学への視座――perspective unto business ethics」

* 研究成果

21年度における第1回の研究会は国土交通省の現役幹部である小滝氏による、「官のコンプライアンスの取り組み」なるテーマでの発表だった。旧社会保険庁の不正行為をはじめ官庁による不祥事が絶えない。談合問題などを抱える国土交通省の真摯な取り組みを聞いて、官におけるコンプライアンスの実践が民間との連携による更なる発展を期待している。

第2回は企業人である飛田氏による、「個人情報保護」論であった。企業人としての経験・実践に加えての理論（企業と個人の信認関係）は、企業と個人の間を改めて再認識。

第3回は本研究部会のベテランである池田氏（立教大学）による、「企業不祥事発生のメカニズムと対策としての統合的組織マネジメント」論であった。

企業時代からの経験に加えての、論理展開は説得力もあり、参加者の中の企業人にとって、これからの「企業不祥事対策」を考える意味で非常に参考になったであろう。

第4回は、加藤氏による「経営倫理学への視座」なる哲学的視点からの発表であった。50年以上にわたる氏の研究からは「経営倫理学とは何か」から始まる多角的考察で、経営倫理学は果たして、経営学分野か？ 哲学分野か？ 参加者達からは多くの発言があり議論の尽きない研究会は活発を極めた。

* 22年度研究活動予定

第1回

平成22年3月29日（月曜日：大阪商工会館）

追手門学院大学大学院 経済学研究科 葉山幹恭氏（会員）

テーマ

中国「走出去」戦略におけるグローバル経営の重要性

—オーストラリア自動車市場の事例を中心に—

第2回

平成22年7月予定（大阪商工会館）

発表者及研究テーマは未定

第3回

平成22年10月予定（大阪商工会館）

発表者及研究テーマは未定

第4回

平成23年年2月予定（大阪商工会館）

発表者及研究テーマは未定

中部地区研究部会

* 21年度研究活動報告

中部地区研究部会も会員が増加してきた。今年も日本消費者教育学会と共催で研究会を開催した。

本学会の参加者は伊藤敦、池田耕一、岡部幸徳、城田吉孝、蕎麦谷茂、藤木善夫、橋本克彦、そ

して関東から萩原勝の各先生方に小生の9名の参加であった。研究会は全体では30名を超え、懇親会も20数名と盛会であった。特に今回は関東の萩原勝先生、関西の池田耕一先生はじめ金沢から岡部幸徳先生にも参加していただき、中部地区研究部会も軌道に乗りつつある。しかしながら案内を送付してもまったく無反応な会員も多く、地区研究部会に所属意識があるかも判明しない。ぜひ、本部で会員の所属地区部会を明確にしていきたい。中部地区に住所があるか勤務地がある方という認識で進めてきたがこの3年間にまったく参加されない方も多い。会員の見直しが必要である。今年度は小生自身が関西地区部会へも参加し、活動状況を学ばせていただいた。次年度以降は当地区で意欲ある会員を中心として補助金の有効活用も検討したいと考えている。中部地区研究部会で活発に活動したい方はぜひご協力をお願いしたい。もちろん全国の会員諸氏の参加も歓迎で、経営倫理学会の研究活動を活発化していきたい。

* 研究成果

今年度の研究報告は以下のとおりであった。

第1報告「サステナブル社会の実現をめざすシティズンシップを育成するための教育」

14:30-15:10 報告者：西村 朱美 氏（伊勢市立五十鈴中学校）

司 会：伊藤 敦 氏（愛知産業大学短期大学）

第2報告「人間発達の視点からみた“Blackboard Bulletin”誌の分析」

15:30-16:10 報告者：大藪 千穂 氏・杉原 利治 氏（岐阜大学）

司 会：吉本 敏子 氏（三重大学）

第3 報告「お詫び広告にみる企業の社会的責任」

16:10-16:50 報告者：橋本 克彦 氏（愛知学泉大学）

司 会：堀田友三郎 氏（東海学園大学）

本学会からの報告者：橋本克彦氏は長い企業経験から経営倫理のあり方に一石を投じるもので消費者教育を研究する者にとっても重要な課題であった。昨秋には消費者庁も設置され、経営倫理と消費者教育は切っても切れないものとなっている。経営倫理研究者も消費者教育が賢い消費者を育成することの重要性を認識して研究に取り組みねばならないと考える。

* 2 2 年度研究活動予定

毎年、この欄には同じようなことを書いてきた。本学会では地区研究会の組織が出来ていないため運営が難しいと述べてきた。理事会でも発言させていただいた。会員数が500名を超える学会になった今、地区部会組織の整備は急務である。現在は関西地区部会と中部地区部会の二つしかない。九州、北海道、関東と少なくとも5地区部会を研究部会の最上位に位置づけることが必要である。それと同時にプロジェクトチームとして各研究会の設置を可能とすればと考える。いずれにしても地区部会活性化が経営倫理学会を今後、学術団体として発展させる基礎となる。

国際化は国内組織を確立してからの課題と考える

そこで今年の活動方針としては他の学会並みに2回の部会を開催したい。1回目は7月下旬に金沢工業大学で岡部幸徳先生のご尽力で開催する予定。2回目は例年通り平成23年1月を予定

している。

国際委員会報告

2009年度も様々な会員の活動がなされた。JABES 国際委員会としては、様々な活動の中から、国際委員会の承認のもとで行われた事業のみをここにご報告することとした。

2009年で特記しておきたい事は、年初より新型インフルエンザへの脅威が内外で指摘され、多くの企業や大学も海外渡航の禁止ないしは自粛要請が行われ、実際に海外から帰国するにあたっては厳しい検査や帰国後の隔離や追跡調査が行われたという事実である。したがって、国際交流の観点からは大変難しい局面が年の前半は存在していたという事を指摘しておきたい。

例年多くの会員が参加する、Society for Business Ethics の年次大会も今年は例年になく参加者が少なく、アメリカ側からは懸念と同情の声が多かった。今年の SBE 大会は8月6日から9日までイリノイ州シカゴ市の Allerton Hotel で開催され、本学会からも数名が参加した。例年の様に開催前日には海外からの参加者に対して特別歓迎レセプションが行われた。

また大会初日の懇親会では昨年3月に来日され、JABES でも講演会をしていただいた Regina Wolfe Dominican University 元教授とご主人の Steven Wolfe(元 Northern Trust 銀行副頭取)のご自宅にご招待を受けた。Mies van der Rohe 設計のミシガン湖が遠望できるレイクショアドライブ・アパートメントの私邸に70～80人に上ろうかという経営倫理学会の重鎮教授が集まったの交流会は忘れがたいものとなった。

大会では古山英二会員が発表されたほか、経済学や金融工学の基礎を問い直す研究が印象的であった。また今回の学会ではラウンドテーブルセッションをはじめ、これまでにない研究発表、研究交流の実験的試みが行われ、これも大変印象的であった。今年も一部の参加者による報告会が9月の研究例会の場をかりて行われた。

10月3日には他大学の招きで来日中の元 SBE 会長で JABES でもおなじみのダリル・ケーン先生を囲んでの研究討論会が開催された。

さらに本年は BEREC の国際シンポにおいて、米国に本拠地をおいて活躍している原丈二氏を講師にお迎えした。公益資本主義を唱える氏を囲んで国際委員会の一部のメンバーが懇親の時をもった。